静岡県教育長賞

「小さな親切」

学校法人磐田東学園磐田東中学校　三年
大庭　煌平

「ありがとうございます。」

試合中、だいたい相手チームのキャッチャーから掛けられる言葉です。僕たちの中学野球部では、監督の教えや先輩たちの姿から『打席に立つときに相手のキャッチャーマスクが落ちていたら拾って土を落とし渡す』ことがあたり前のこととなっています。むしろ反射的に体が動いてやったことに対して「有難う」と言われると、敵チームながら何か心がつながった気がして大好きな野球を共に戦っているワクワク感が増します。当たり前のこととしていたことですが、この姿を試合の応援に来てくれた祖母に「あの姿が素敵だと思った。」と言われて、より相手の気持ちを意識するようになりました。

僕は、「親切」とは（もしかしたら相手にとっては必要でないことかもしれないと配慮しつつも）相手を敬い、思いやる心そのものと考えています。野球には「親切」があふれていると思います。まず、野球は一人ではできません。チームメイトなり、対戦相手なり、必ず相手が必要です。そんな共にやってく

れる相手に対する敬いの気持ちは常に持ち合わせなくてはなりません。「言葉」もそうです。中には野次を飛ばす監督、コーチ。相手チームの気持ちを煽るようなことを言うチームもありますが、大抵は自チームの仲間の気持ちを「自分だったら…」と置き換えて励ましや安心するような言葉が飛び交います。それによって雰囲気もよくなり力が湧いてきて良いプレーにつながります。自チームばかりではありません。悔しくても相手チームがいいプレーをすれば「ナイスプレー」や「ナイスファイト」という言葉が出てきます。

野球には危険もつきものです。わざとでなくても投球や打球が当たってしまうようなアクシデントもあります。そんな時には自チーム、相手チーム関係なく、すぐに痛みを負った選手に駆け寄りコールドスプレーをかけたり、手助けをしたり帽子を取って謝意の気持ちを表したりするものです。さらには、そういうことが出来るチームの方が強かったりもします。

僕が夢中になっている「野球」。精神面を鍛える、仲間との絆を感じる、自分の経験を後輩に伝える、気付き行動する、体力をつける、判断力をつける、瞬発力をつける…多くの学びを与えてくれる野球を僕は高校でも続けていきたいと思っています。災害、異常気象、感染症の蔓延と心配の絶えない今です。人とつながりがあるこのスポーツができる幸せをかみしめて、「親切」な行動が自然にもっとできる人間に成長できるように日々の生活、練習に向き合っていきます。

静岡県教育長賞